

# 世界経済の展望

廣 島 鉄 也

## 目 次

1. 世界経済の概観
2. 新型コロナウイルス感染症拡大以降の世界経済の展開
3. 世界経済をめぐるリスク

### 1. 世界経済の概観

新型コロナウイルスの新規感染者数をみると、2022年初のオミクロン株感染拡大により、それまでのピークの数倍という高さにまで感染者数は増加した。この結果、様々な影響が表れたが、足元（講演を収録した2022年3月の状況、以下、同じ）、米国やインドではしっかりと抑え込まれている。一方、欧州はやや下げ渋っており、足元では、若干、増加に転じている。また韓国などアジアでも、足元、増加しており、地域によるばらつきがある。この間、ワクチン接種率は各地域とも一定の高さに達している。2021年の夏ごろは先進国と新興国とのワクチン接種率の格差が目立っていたが、最近では新興国でもワクチン接種率は60～70%まで上昇している。ブースター接種

も欧州では5割ほどに達している。

こうしたワクチン接種を前提に、このところ、欧米を中心にマスクの着用やレストラン利用時の接種証明書の提示、さらには入国規制といった各種規制が緩和されている。また、主要な新興国でも先進国並みのワクチン接種の進展を受け、かつてに比べると経済活動の維持にウエイトを置いた措置をとるようになってきている。このようにグローバルでみて新型コロナからの経済の再開ないし正常化が一段と進んでいる。こうした中、企業の業況感を示すPMI（購買担当者景気指数）は製造業では米国、欧州が高めで推移しており、グローバル合計でも節目となる50を安定的に上回っている。一方、非製造業では2021年夏場のデルタ株の拡大、また2022年初めのオミクロン株感染拡大の際に、それぞれ、いったん大きく沈んだ



廣島 鉄也（ひろしま てつや）

日本銀行国際局長。1990年東京大学経済学部卒業、同年日本銀行入行。1995年米国ペンシルバニア大学ウォートン・スクール卒業（MBA）。2000年企画室副調査役、2002年内閣府、その後、政策委員会室企画役（総裁秘書）、金融機構局金融モニタリング課長、総務人事局人事課長、国際局総務課長、国際通貨基金を経て、2017年国際局審議役、2019年政策委員会室秘書役。2021年3月から現職。

（本稿は2022年3月28日に日本証券アナリスト協会にて収録し、4月に動画配信した講演の要旨である。）